
月季物語

ゆきけ氏

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

月季物語

【Z-マーク】

Z6300Y

【作者名】

ゆきけ氏

【あらすじ】

俺は死んだ両親の後を追つて死んだ・・・はずだった
きづけば俺は女になつて異世界に転生していた！

プロローグ（前書き）

初投稿です。見苦しいところもありますが暖かい目で見守ってください。

プロローグ

「 いじは、 じじだ・・・？」

月夜見 終 つくよみ しゅう は何もない真っ白な世界でひとり
喰いた

8月14日、 今日、 僕の家族の全員が死んだ
父の月夜見 秋人 つくよみ あきひと は、 家を自分と共に爆破
したからだそうだ

幸いにも俺はその場にいなかつた

父がなぜそんなことをしたのかわからないが明らかに父は狂つてゐ
俺の家は、 一言で言うと平和そのものだつた・・・
それを父は壊した・・・

俺は両親の後を追つてマンションの屋上から飛び降り自殺した・・・
はずだつた

俺は今見渡す限り真っ白なところになぜかいる

「 お～い」

いきなり声が聞こえた俺はまた辺りを見渡す
するとさつきまで何もなかつたところに人がいた
10歳くらいの顔立ちで髪は腰まで落としていた 所謂、 幼女つて
やつだ

「 誰だお前」

「 神サマ～。 てか、 この状況でパニックにないなんてあの人の子だ
けはあるね～」

「 神サマ？ 何を言つてゐるんだ？」

「 まあ、 そんなことはどうでもいいの。 君にはいきなりだけど異世
界について もらうよ。 赤ん坊からスタートするから頑張つて～。」

ふざけた口調でその自称「神」は異世界に行つてこことか言つてやがる

「お前何言つてんの？お前バカなの？」

自称「神」は頬を少し膨らませ

「バカつていつたほうがバカなんだ～。

それに行かないなら元の世界に戻つてもらうよ～？

と言つても元の世界の君は死んでるから戻つても死ぬだけだけどね～」

「それじゃあ行くしか選択肢は何じゃないか！」

この自称「神」ふざけている出てきなり自分は神だの、異世界に行けだの本当にふざけている

でも・・異世界つてのは面白そつだ・・

「よし。面白そだから行つてやるうじやないか。」

自称「神」は笑顔で

「お、ノリがいいねーじゃあ行つてらっしゃい。後、私の趣味で異世界ではアンタは女だからね～」

「なぜ女？」

「つむさい。つべこべ言わずに行つてこい」

こつして俺の異世界での物語が始まつた・・

プロローグ（後書き）

馴文ですいません

1 四回の赤ん坊生活（前書き）

今回も暖かい日で見守ってください。

一回目の赤ん坊生活

なんだかんだで俺は今赤ん坊になつている。
しかしながらあれだね。赤ん坊つて不便だね
なかなか自由に動けないし、すぐ疲れるし、
上手く喋れないしね。

けど・・一番の問題は知らない人のその・・あれだ。
知らない人もの母乳を飲む事だ。

知らない人の母乳も飲むというのはスッゲー恥ずかしい。考え方
によつては嬉しいかもしけないが・・

あと俺の母親は結構な美人だ父親のほうも美形だ。

あ～それにしても暇だ。暇すぎる

とりあえず今日は寝よう

なんだか一日のほんとんど寝てるな～今の俺・・

俺はまた真っ白だけが広がる世界に來ていた。
そこにはまた神がいた。

「おひさ～何日ぶりだっけ～？」

俺も何か喋ろうとしたが思つたように言葉が出ない・・不便だ

「そういえば今は喋れなかつたんだっけ～？まあそんなどうでも良
い事は置いといて（つ^3^）つ本題に入らうか。」
相変わらずふざけた喋り方だ。

「またいきなりだけどこの世界の説明をするね。この世界はRPG
とかのゲームでお馴染みの剣と魔法の世界なんだ～・・あと超能力
とかもあるよ～」

神の話を聞いて改めておかしな世界に行かされたと思う。

「他にもいろいろあるけど、面倒くさいから君の脳のなかにこの世
界に関する事を記録しておくね～。

あと、君にはいわゆるチート能力的な能力を与えておいたからね～。チート能力についても君の脳の中に記憶しておくね～。じゃ。そう。

ゆうことで～バイバイ～

おこおい隨分とテキトーじゃねえか神サマ

きさくと俺はベッドの上だった。

なぜか知らんが俺はこの世界について知っていた。これが神の言つていた俺の脳にこの世界のことを記憶するつていうことなんだな～俺は一人で関心した。

さてともう一度寝るか・・

一回目 赤ん坊生活（後書き）

本当に駄文ですいません。 ま（ま）

「この世界と能力について（前書き）

意味が解らなかつたらすいません

IJの世界と能力について

とりあえず神が教えてくれたこの世界についての事や俺の能力についてを説明しておこう。

この世界は、神が言つたとおり、RPGでお馴染み魔法や魔術とかついて超能力とか色々ある。

魔法や魔術、超能力は努力しだいで誰だつて覚えられる。だが、才能みたいな感じで、生まれつき備わっている能力もある。その生まれつき備わっている能力はその人にしか使えない・・簡単に言うと、能力には、その人しか使えない能力があるということだ。

ちなみに俺の能力は陰暦・・・睦月、如月、弥生、卯月、皐月、水無月、文月、葉月、長月、神無月、霜月、師走。などの昔の月の名前を言うとその月によって能力が発動するというものである。・・・ザックリ言つと俺は12個のの能力を持つていて、その能力を発動するには、昔の月の名前を言う。というものである。

俺は、この能力に名前がなかつたので月季^{げつき}と呼ぶことにした。

この世界にはこれまたRPGのよつてこの世界にはモンスター、魔獸、魔物、神獸、などもいる。

そしてそれらを従える魔王と呼ばれる者もいる・・・

そして俺のように異世界から転生してきた奴も居るらしい。

なんでも俺ら転生者は魔王を殺すため、色々な神によつて転生されたらしい

所謂、勇者つてやつだ。

勇者はそれぞれ違う能力を使うらしい。

俺とは別の勇者達もいきなり異世界に転生されて迷惑しているだろ
うな・・・

眠たくなってきたな・・・
さて今田はもう寝るか。

「」の世界と能力について（後書き）

本当に駄文ですいません

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6300y/>

月季物語

2011年11月21日12時04分発行